漁 海 況 情 報

平成２０年１２月１９日　第２８号 (通巻３８７号)

山口県水産研究センター　外海研究部　〒７５９ - ４１０６　長門市仙崎２８６１–３

ＴＥＬ：０８３７ - ２６ - ０７１１　ＦＡＸ：０８３７ - ２６ - １０４２　Ｍａｉｌ：a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

HP アドレス： http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html

【萩 - 見島フェリー観測の表層水温】

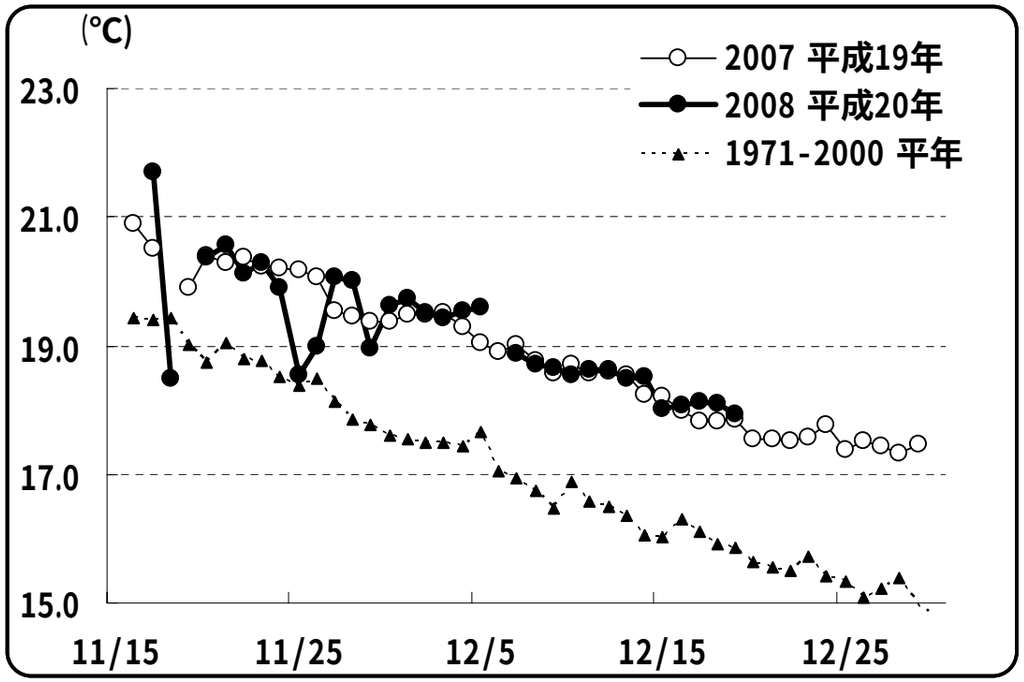


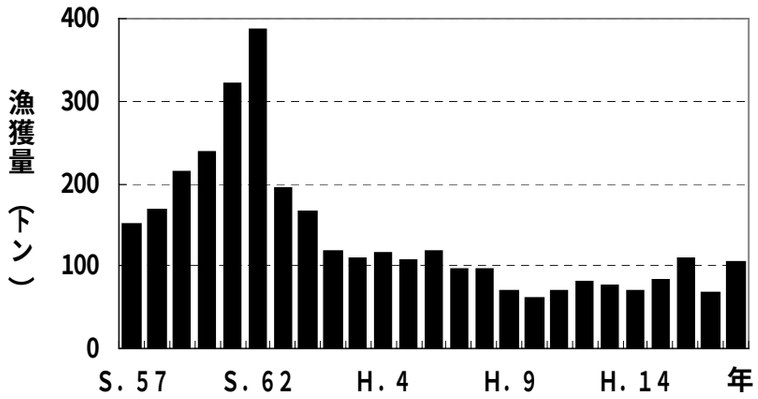
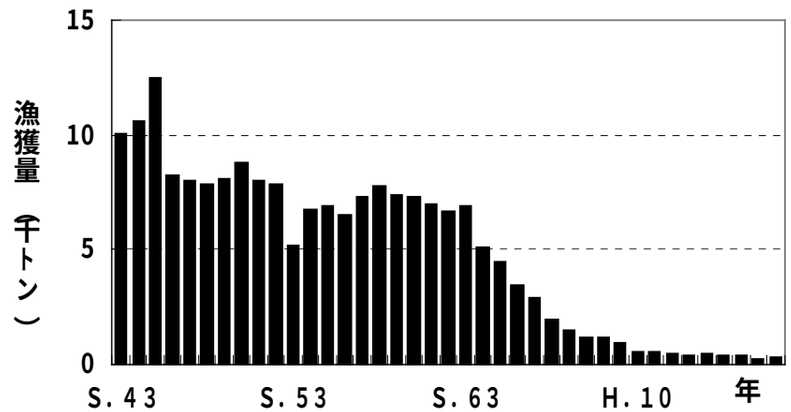
図　萩ＮＮＷ１５マイル沖表層水温の推移

萩 - 見島フェリー観測による萩沖の表層水温 (左図) は 12 月中旬に入り 18℃台で推移しています。

12 月 19 日の表層水温は 17.94℃で、前年に比べ 0.08℃高め、平年に比べ 2.09℃高めです。

【平成２０年　山口県版資源評価票　③】

平成 20 年山口県版資源評価票のうち、最後に「ヒラメ、あまだい類」の２魚種をご紹介します。文中の「漁獲量」とは山口県日本海側の漁獲量 (山口農林水産統計年報、日本海区) を示し、グラフはその推移を示しています。

魚種名	資源水準	資源動向	資源評価の概要	H18日本海側漁獲量（山口農林水産統計）	山口県日本海側漁獲量の推移（山口農林水産統計、日本海区より抜粋）
ヒラメ	中位	増加	・日本海西部･東シナ海系群の資源量は、平成11年に2,818トンまで減少したが、その後若干増加し、平成19年の推定資源量は4,029トンとなった。これは大型魚が増加し、高齢魚の割合が高くなったためである。産卵親魚量は高い水準にあるが、再生産成功率（1才魚資源尾数／産卵親魚量）が低位であることから資源尾数は低水準である。これらのことを総合して、現在の資源水準は中位、資源動向は増加と判断された。 ･山口県日本海側の漁獲量は昭和62年の388トンをピークとして、以後平成10年まで減少傾向にあった。平成11年以降は60～110トンで推移している。	１０５トン	
あまだい類	低位	横ばい	・ 東シナ海の資源量は、周辺国を含めた漁獲圧のために、現在相当低水準にあると考えられる。一方、近年のわが国漁業の主漁場である陸棚縁辺域および対馬周辺海域の資源状態はやや回復傾向にある。これらを総合して、資源水準は低位、資源動向は横ばいと判断された。 ・ 山口県日本海側の漁獲量は、東シナ海を主漁場としていた昭和45年の12,460トンをピークとして、昭和46～63年までは微減傾向にあったが、平成元年以降は急激に減少した。平成11年の新日韓、平成12年の新日中漁業協定により日本の経済水域が確定して以降、漁場は対馬周辺～日本海南西部海域となっている。なお、平成18年7月24日より、「山口県日本海海域あまだい類資源回復計画」が策定･実行されている。	２６７トン	

【豊関・ 大津長門地区の水温情報】

漁業調査船「第２くろしお」による、12 月 17 日の水温調査結果をお知らせします。

調査ライン図は右の欄に載せています。

表　各観測点の水深別水温（℃）　12 月 17 日

測点番号 名称等 深度・時刻	① 豊関人工礁 9：28	② 神田岬沖 10:10	③ 川尻岬沖 11：28	④ オーシャン クロス最西 11:52	⑤ 深川湾口 13：51
0m	17.9	18.8	17.9	18.0	17.9
20m	17.7	18.8	17.8	18.0	17.8
40m	17.6	18.8	17.8	18.0	–
60m	17.6	18.7	17.8	17.8	–
80m	–	–	–	17.8	–
海底	17.6	17.4	17.8	17.7	17.8
水深	71m	76m	65m	87m	37m

調査海域